

ちおん

謹賀新年 平成十八年元旦

神余山 智 恩 寺
館山市神余 2785 番地
Tel 0470(28)2518



成年とニッろ構え

任職 奥 村 孝 司

函館のあるお檀家さんでの事です。「先日、歯垢を取りに行つて来ました。この前は、両足脱臼で手術に14万。続いて難聴両耳で4万。と思いきや、肝硬変で食事制限の毎日です。」とお婆ちゃん。

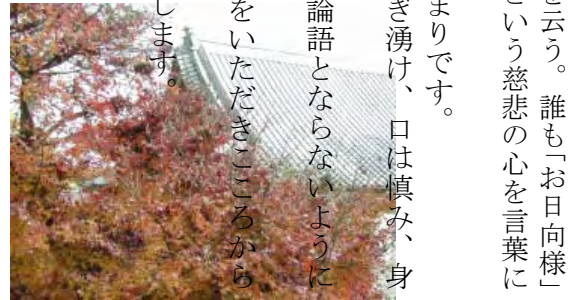
「お婆ちゃん、年金をすべてつぎ込んでるんでしょ」と私。「そうなんですからあ。でも可愛いんですから」とお婆ちゃん。

これ、すべてペットの犬の話です。しかし、犬の諺をたどるとあまりいい表現がされていません。「犬猿の仲」「犬に論語」「犬も歩けば棒にあたる」「夫婦喧嘩は犬も食わぬ」と。年頭にあたって犬には申し訳ありませんが、中でも「犬が遠吠えするとその方角で死人が出る」と云われています。最近では野良犬も少なくなりそんな光景は目の当たりにすることは無くなりました。迷信だといってしまえばそれまでですが、人が死ぬときに身体から離れていく人魂が犬には見え、それに反応しているようです。異変を感じた犬が遠吠えしているのだそうです。迷信だ、ジंकスだでは片付けられないようです。迷信も立派な信心だと思えます。先の病院通いのペット犬は本来の犬に戻れるでしょう。五感を磨くという意味では、我が家の犬も衰えてきています。人間もそうなっている面が多々あるようです。便利という不便に慣れたが故に、陰を慕う(見えない)ことを忘れていようになりません。

自分はさておき、他の批判を云う。誰も「お日向様」とはいけません。「お陰様」という慈悲の心を言葉にして感謝することです。さあ、平成十八年成年の始まりです。心の目で見、良く聴き、嗅ぎ湧け、口は慎み、身体穏やかに過ごしましょう。犬猿の仲にならぬ様、犬に論語とならないように気をつけましょう。庫裡建設にも毎月のご浄財をいただきこころから感謝申し上げます。今後とも宜しくお願いいたします。

年頭にあたり

筆頭総代 加藤 弘



お檀家の皆様、お変わりなく新年をお迎えのことと拝察申し上げます。智恩寺には、いつも変わらぬ暖かいご支援を頂いております。庫裡積立金も予定通り入金していただいております。誠にありがとうございました。新年を迎えまして、一休和尚の句をご紹介します。

「門松は 冥途の旅の 一里塚」 正しくは、「ご用心 ご用心 門松は 冥途の旅の 一里塚めでたくもあり めでたくもなし」と続きます。この言葉は、人によって受け止め方も違うようですが、言葉の真意は、新年を迎えて、気分一新に満ち喜び合うのは結構だが、浮かれてばかりいると、いつの間にか年をとってしまふという、戒めた言葉だと思われ、人生の終着駅が近くなることを意味しています。一休和尚の句より教えられて、残されたこれからの人生、何が出来るのか、何を成すべきか、考えさせられます。私自身、いたらぬ点もございますが、今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます、お檀家の皆様のご多幸と智恩寺の発展をご祈念申し上げます。

行事予定
1月 1日年頭付け届け
1月 14日新年祈祷会
役員会(第8回建設委員会)
2月節分会・釈尊涅槃会



＝お経に親しむ＝

『延命十句観音経 (えんめいじゅつつかんのんぎょう)』の世界

観世音 南無仏 (かんぜいおん なむぶつ)

観音さま、私は観音さまを信じ観音さまにすべてをお任せします。

与仏有因 与仏有縁 仏法僧縁 (よぶつういん よぶつうえん ぶつぼうそうえん)

私は仏にさせていただく因と縁を頂いています。仏の教えを信じ、また教えを求めていく人々とめぐり会えたお陰で

常楽我浄 (じょうらくがじょう)

常・楽・我・浄の観音さまの四徳が、私の身にいただけますように

朝念観世音 暮念観世音 (ちょうねんかんぜおん ぼねんかんぜおん)

朝な夕なに観世音を念じます。

念念従心起 念念不離心 (ねんねんじゅうしんぎ ねんねんふりしん)

この一念は、私のところからではなく私の心中に秘められている仏のこのころの願いです。

- 四徳・・・常徳 (無常の世の中を生きていくのに無常を大切にしていくと、やがては不安のなくなる平常心が具わる)。
- 楽徳 (苦の世の中を生きるには、苦をよくかみ締めていくと苦から色々教わり苦が苦痛でなくなる)。
- 我徳 (自分ひとりの力で生きるのではなく、さまざまな縁に助けられ支えられ生かされ、他を生かしていくという自利利他のはたらき)。
- 浄徳 (苦だ 楽だと分け隔てをしない。浄だ 不浄だと選り好みをしない平等の智慧と慈悲)